

バルシューレ指導者講習会 COVID-19感染対策

本ガイドラインは、講習会を行う際に留意すべき事項をまとめたものです。

国や北海道、またはボールゲームに関するスポーツ競技団体や受講者や講師の所属団体の自粛要請（またはこれに相当する状況）がないことが講習会実施の前提条件となります。

個人の感染予防



感染者発生時の濃厚接触者の最少化

感染予防策の遵守

感染経路の 理解

- 咳やくしゃみなどで飛散した飛沫が直接または物や身体などを媒介して、目・鼻・口から侵入する。便へのウイルス排出も確認。
- 感染可能期間は軽症例では発症2-3日前～発症後8日目まで（中等症以上はそれ以降まで）とされる。

講習会日ま での予防策

- 健常な若年層では重症化のリスクが低いが、これらの者が媒介者となり、他の受講者や子どもに感染が拡大したり、重症化リスクの高い者への感染を来すため、感染予防策の遵守を徹底する必要がある。
- 受講者や講師から、感染が疑われる症状がないことが講習会実施の条件となる。

講習会場での 予防策

- 個人が適切な感染対策を講じ、講習当日まで健康上の問題が発生していなければ、講習会場に有症状者はいないはず。
- しかし市中感染のリスクが常に存在するため、各自が無症状病原体保有者となる可能性がある。試合会場においても、感染予防策の遵守を徹底する。

cf. 重症化リスク

重症化のリスク因子

65歳以上
糖尿病
高血圧
肥満
慢性呼吸器疾患
(気管支喘息・肺気腫など)
慢性腎臓病
心血管疾患

エビデンスに乏しいが 要注意な因子

悪性腫瘍
喫煙歴
妊婦
生物学的製剤の使用
HIV感染症

全ての受講者・講師は常に以下の予防策を遵守する

3密を避ける

- ・換気を十分に行う
- ・タオル・ドリンクボトルを共有しない
- ・COCOAのインストールを推奨する

周囲環境やモノの消毒

- ・70%以上の濃度のアルコールを準備する
- ・動線が交わることをこまめに消毒する
- ・共有物はこまめに消毒する

実技中の一部を除きマスク着用

ユニバーサマスクポリシー
全ての者が病原体保有者であり、感染拡大防止のために実技場面以外ではマスクを装着する

- ・マスク単独では対策不十分であることを理解
- ・咳エチケットの徹底

手指衛生の徹底

- ・30秒以上の手洗い
- ・70%以上の濃度のアルコール

- ・受付・待機場所に消毒用アルコール
- ・実技の休憩間はこまめに消毒する

ソーシャル・ディスタンシング

- ・実技中以外はできる限り距離を保つ

全ての入場者の試合当日までの対応

1週間前～

講習会運営者に感染対策本部を配置する

講師及び受講者は、講習の1週間前よりの毎日健康状態を記録する

体調不良者は講習会に参加しないことを厳守する

普段から感染予防対策を遵守した行動を行う

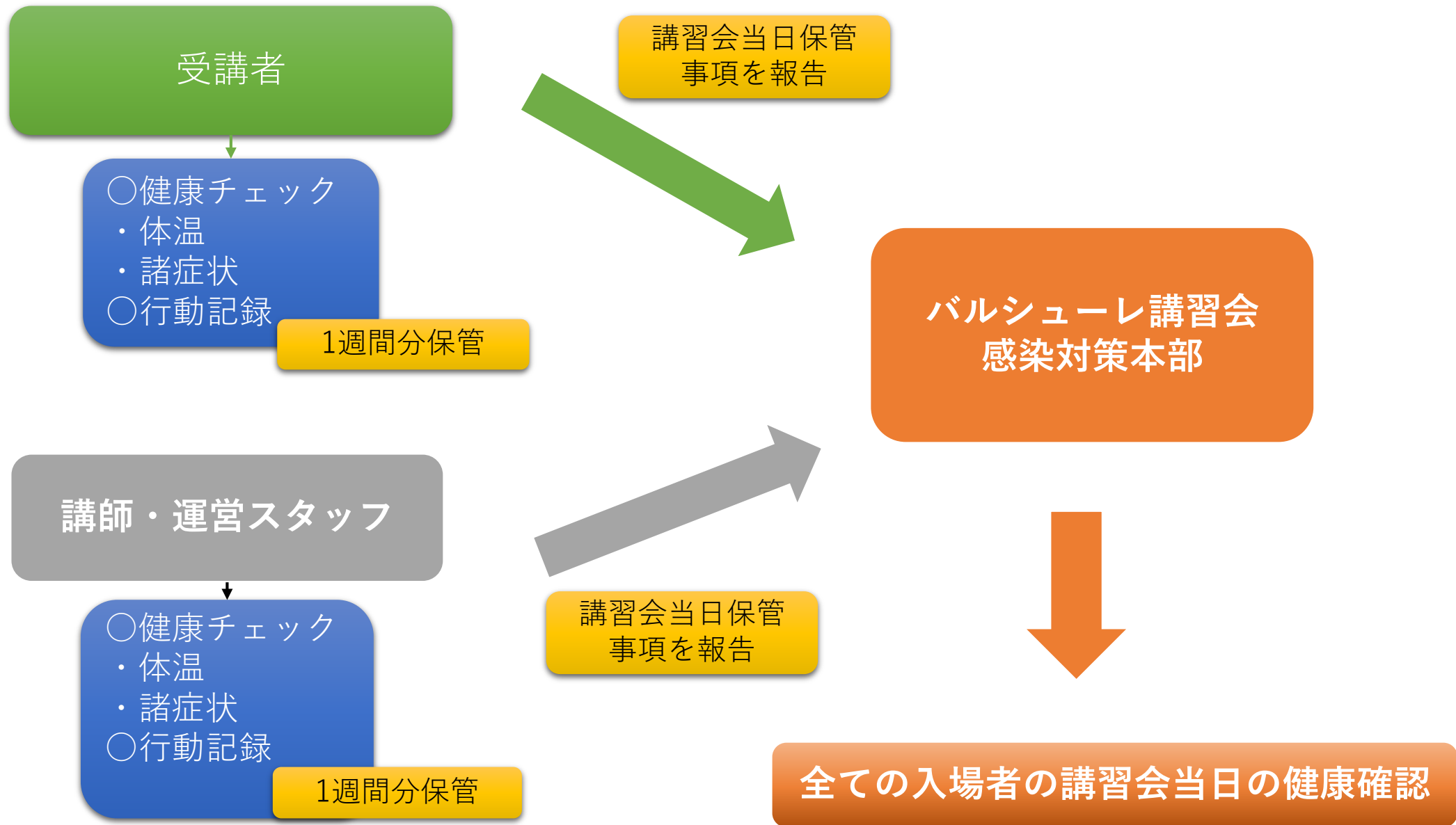
講習前日

講師・受講者の健康状態を確認

講習当日

全ての入場者の講習会当日の健康チェックをしてから会場に入場する

講習会当日までの流れ



講習会当日の対応

集合

- ・ 指定の時間に集合

受付

- ・ 当日の健康確認
- ・ 健康チェックシートの提出

入場

- ・ 待機場所を明確に設定する
- ・ マスク着用
- ・ アルコールによる手指衛生
- ・ 入口と出口でまじわらないよう
できる限り動線を区別する

更衣

1

更衣室の使用時間・人数を限定（広さに応じて）

2

シャワーの使用は禁止（少人数で利用できる場合は可）

3

狭いエリアで打ち合わせは行わない

4

トイレにポンプ式泡石鹸、ペーパータオル・ゴミ箱を設置

待機中

1

動線が交わらないように待機場所を決める

2

声をあげての挨拶、握手、ハイタッチ、抱擁はしない

3

待機中はできる限り1M以上距離をあける

4

実技の待機時間、休憩時間は、手指衛生を徹底する

5

講習後速やかに帰宅する

実技中

- 1 打ち合わせでは、互いに1m以上の距離を開ける
- 2 プレー中以外はマスクを着用する
- 3 ドリンクボトル、ビブス、タオルなどを共有しない
- 4 実技直後は、広いスペースで待機し、息を整えてからマスクを着用する
- 5 こまめに換気を行う
- 6 受講者をなるべく小グループに分け、他のグループとの接触は避ける

準備物

手指衛生用
アルコール
(70%以上の
濃度)

ペーパータ
オル

ポンプ式液
体泡石鹸

非ラテック
ス手袋

不織布マス
ク

フェイス
シールド